

縄文・弥生 日本人のルーツ縄文と弥生人の共生に思いを馳せて

関西での「水田稲作の始まり」と「縄文人と弥生人の共生」を明らかにした伊丹市口酒井遺跡の展示



新しくなった伊丹市立ミュージアムと 伊丹の歴史常設展示 縄文・弥生より 2022. 6. 13.

関西での「水田稲作の始まり」と「縄文人と弥生人の共生」を明らかにした伊丹市口酒井遺跡

昨年 東北・北海道の縄文遺跡群が世界遺産に登録決定しましたが、関西の縄文遺跡にも

縄文人と弥生人が共生融合して、水田稲作の弥生の新時代を開いたことを問いかけた縄文遺跡がある。

今一度 是非 思い起こしてほしいと…

伊丹の博物館がきれいに整備され、伊丹の街の歴史展示の一環として 口酒井遺跡の展示も整備されていると聞いて見に出かけました。

■ 新装なった伊丹市立ミュージアムの歴史展示 縄文・弥生 口酒井遺跡遺物

■ 縄文・弥生 日本人のルーツ縄文と弥生人の共生に思いを馳せて

「和鉄の道・Iron Road」に掲載してきた縄文人と弥生人共生の記事より

「和鉄の道・Iron Road」に掲載してきた縄文人と弥生人共生の記事の掲載リスト

【1】 関西での水田稲作の始まり 縄文人と弥生人共生を明らかにした猪名川河口域の村 2022. 11. 15.

【2】 縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した弥生人の大集落遺跡 神戸市西区 玉津田中遺跡 2020. 2. 1.

【3】 ユネスコ登録を目指す北東北・北海道の縄文遺跡を世界文化遺産登録勧告

柿衛文庫・伊丹市立美術館・伊丹市立工芸センター・伊丹市立伊丹郷町館・伊丹市立博物館が統合されて、本年4月新たに開設された伊丹市の文化ゾーン 伊丹市立ミュージアム。今まで薄暗い市立博物館に展示されていた歴史展示がここに移され、縄文・弥生時代展示を含めて 新たに展示されていると聞いて出かけました。

目的は私の思い入れ深い猪名川河口近くに開けた縄文・弥生の複合集落「伊丹市口酒井遺跡」の展示見学

関西での「水田稲作の始まり」と「縄文人と弥生人の共生」を初めて世に問いかけた遺跡です。

昨年、1000年近くにわたり永続する世界に類を見ない縄文社会を作りあげた日本の縄文が世界遺産に登録決定され、また、人類が幾多の困難を乗り越え、地球人として生き抜いてきた道が「他人を思いやる心・共生」にあると広く知られるようになってきた。かつて日本社会に行き渡っていた「日本人のルーツや縄文・弥生時代の時代感」の見直しを世に問いかけた遺跡がこの猪名川河口に開けた村の一つ口酒井遺跡だと思っています。

今またロシアのウクライナ侵攻・新型コロナ・もう待たなしの低炭素化社会へなど変革・混乱の時代の中、近隣の人たちにもほとんど知られないこの素晴らしい縄文集落口酒井遺跡が新装開設されたミュージアムでどう取り上げているのか?と期待半分 でもまだまだマイナー?

もしや新しい時代感で評価された展示にかわっているのでは……と。

もう約20年も前プレハブ倉庫にグラウンドシートをかけて山積みされていた出土遺物を考えると雲泥の差。

新装なった博物館できっちり整理され、伊丹市の歴史展示の一部として展示されていると聞いた展示。

新装なったミュージアムに展示された口酒井遺跡出土の「縄文人と弥生人の共生」を考える遺物を見学に。

縄文人のくらし

Daily Life in the Jōmon Period

狩猟採集を行い

今から約12万5千年前、伊丹市域はほぼ海の中でした。猪名川と武庫川が運んできた土砂で伊丹台地が生まれ、両河川に削られて崖ができました。地球規模の寒冷化と温暖化によって海岸線は北上と南下しますが、約6千年前の縄文海進の頃に、海岸線は伊丹台地に達しました。

飛行場滑走路建設時に約4千年前の土器片が発見されています。縄文人は木の実を集め、石を打ち欠いて作った鏃を付けた矢の他に、槍なども使って狩りをしました。



縄文のくらし (提供: 神河町教育委員会)

稲作農耕が始まる

稲作は、大陸や朝鮮半島から北部九州に伝わり、東へ広がります。猪名川東岸の口酒井遺跡で、縄文時代晩期の浅鉢に籾の痕が発見され、穂を摘む石包丁もセットで見つかったことから、いち早くこの地域で稲がつくられていたことがわかりました。田は見つかっていませんが、稲作に適した低湿地に小規模な田がつくられたと考えられ、それまでの狩猟や漁を中心とした生活から変わっていききっかけになりました。



籾痕付き浅鉢

縄文時代晩期
口酒井遺跡第6次調査出土
Shallow bowl with unhulled rice mark
この浅鉢には、籾の圧痕が付いています。これは「土器を作る時に籾が付いた＝弥生時代以前、すでにここに住んでいた人々は稲を作り、米を食べていた」ことを裏付けます。この重要な発見は本市の歴史を物語る上で重要なだけでなく、国内において貴重で、発見された口酒井(穴森)遺跡は全国的に一躍有名になりました。



弥生人のくらし

Daily Life in the Yayoi Period

ムラでくらす人々

弥生人は、食料となる獲物の狩猟や木の実の採集といった、必ず確保できるかわからない食料に頼るだけでなく、安定したくらしをおくるために米を主食にするようになりました。彼らは、協力して米作りを行うため、川から田まで、水を引く用水路をつくり、大人数で生活し、ムラをつくりました。ムラでは竪穴住居に住み、収穫した米を高床倉庫に保管しました。これは農村社会の原形となりました。



弥生時代のムラの風景

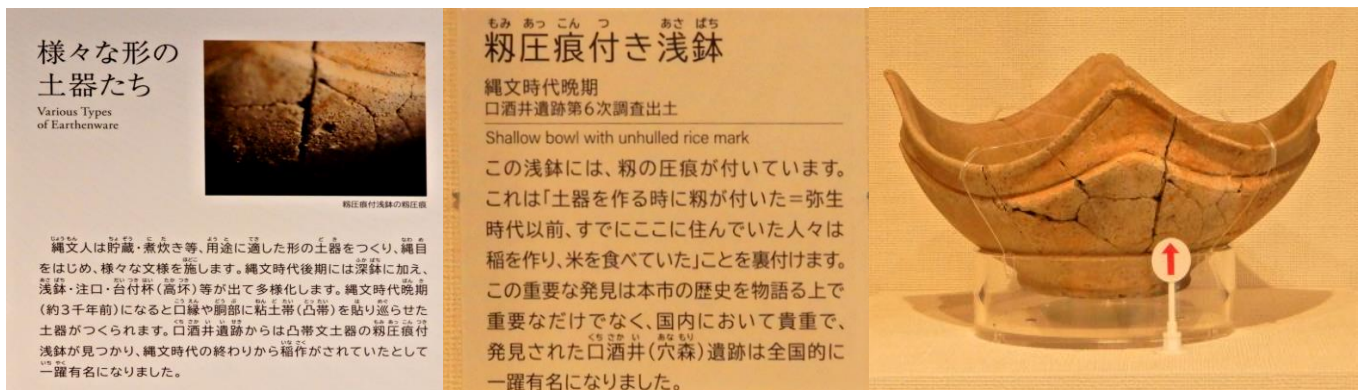
道具から見たくらし

穂を摘み取る道具である石包丁は、弥生人には必要なアイテムでした。尖頭器や石鏃、魚を捕る時に使う網の鏝も出ています。米作りをしながら狩猟もしていたのでしょうか。また、磨製石剣は朝鮮半島から伝わり、祭祀に使われたと考えられています。どのようなマツリを行っていたのでしょうか。



弥生時代の米作りの様子 (提供: 明石市市民生活文化・スポーツ室)

■ 新装なった伊丹市立ミュージアムの歴史展示 縄文の暮らし



縄文晩期 口酒井遺跡から出土した縄文の種々の形の土器・道具類 一番は粳の圧痕が付いた土器の出土
また、縄文時代の象徴 石棒・土偶等も出土し、縄文晩期口酒井の集落では稲作が行われていたことを示す

■ 新装なった伊丹市立ミュージアムの歴史展示 弥生の暮らし



ムラでくらす人々

弥生人は、食料となる獲物の狩猟や木の果の採集といった、必ず確保できるかわからない食料に頼るだけでなく、安定した暮らしをおくるために米を主食にするようになりました。彼らは、協力して米作りを行うため、川から田まで、水を引く用水路をつくり、大人数で生活し、ムラをつくりました。ムラでは竪穴住居に住み、収穫した米を高床倉庫に保管しました。これは農村社会の原形となりました。



弥生時代のムラの風景

道具から見た暮らし

穂を摘み取る道具である石包丁は、弥生人には必要なアイテムでした。尖頭器や石鏃、魚を捕る時に使う網の錘も出ています。米作りやしながら狩猟もしていたのでしょうか。また、磨製石剣は朝鮮半島から伝わり、祭祀に使われたと考えられています。どのようなマツリを行っていたのでしょうか。



弥生時代の米作りの様子
(提供: 明石市市民生活文化・スポーツ室)



弥生人の埋葬

Burials in the Yayoi Period



豊前(口酒井遺跡)

ムラの外に墓域を設け、遺体を棺に納め埋葬しました。木の板を組み合わせた木棺や、大きな壺や甕を棺として使うこともあり。棺の周りに円形や方形の溝を掘った周溝墓をつくるようになります。この大きな壺は棺として使われていたものです。壺上部を胴部から外し、蓋にしていた。壺(棺)のそばには土器がありました。埋葬者への供え物でしょうか。



口酒井遺跡は縄文晩期から弥生へ継続 道具類は稲作の道具へ

展示は伊丹博物館の時代に展示されていた記述で、特に私が期待した縄文人と弥生人共生の踏み込んだ記述や縄文・弥生の時代感に踏み込んだ評価展示はありませんでした。

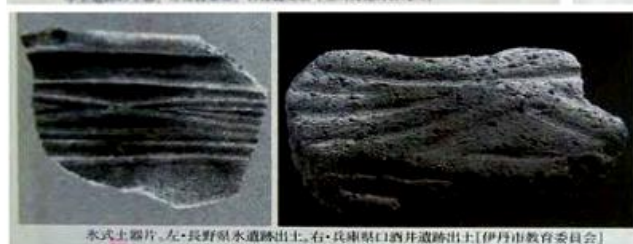
でも 縄文時代晩期から弥生時代への移り変わりの中で、口酒井遺跡が住み継がれ、縄文土器と弥生式土器が混在出土するなどの出土遺物の変化そのものが同じ時代の猪名川河口周辺の遺跡とも合わせ、縄文人と弥生人の共生を示しているともいえる。

(新しいミュージアムになって やっぱ一般人の眼が弥生・縄文に向かぬこともあって、伊丹博物館の時代の展示よりも簡素化されたためかもしれません。)

参考 「和鉄の道」に記載してきた関西 猪名川河口の集落での縄文・弥生人交流
もう何年も前の記録認識ですので、今もっと新しい認識があるのかもしれない
ご注意ください



縄文晩期 縄文/弥生の人々が共生して関西で初めて水田稲作を始めた伊丹市口酒井遺跡



縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡 口酒井遺跡。約2千3百年前(弥生前期)

上記の写真は 弥生草創期の集落 口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。 弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えべきだという。 そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方 反対に 東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

8年前の和鉄の道・Iron Road 2013 「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」より
<https://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf>

<https://infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf>

上記の口酒井遺跡から出土した東日本の縄文土器の特徴を示す土器片も一度きっちり見たかったのですが、残念ながら 展示されていませんでした。

教科書からも外れた縄文 関西ではほとんど古い縄文・弥生の時代感認識のままとすることが多いのですが、今一度 きっちりと多くの人にも知ってほしいと思っています

■ 縄文・弥生 日本人のルーツ縄文と弥生人の共生に思いを馳せて

「和鉄の道・Iron Road」に掲載してきた縄文人と弥生人共生の記事の掲載リスト

令和の時代 少し時代感が古いかもしれませんが、関西の縄文・弥生を知ってもらう手助けに

-
- [1] 関西での水田稲作の始まり 縄文人と弥生人共生を明らかにした猪名川河口域の村 2022. 11. 15.
 - [2] 縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した弥生の大集落遺跡 神戸市西区 玉津田中遺跡 2020. 2. 1.
 - [3] ユネスコ登録諮問機関が北東北・北海道の縄文遺跡を世界文化遺産登録勧告
-

[1] 関西での水田稲作の始まり 縄文人と弥生人共生を明らかにした猪名川河口域の村 >

縄文晩期/弥生早期 関西の水田稲作は 縄文・弥生の人たちが共生して暮らす中で始まり、猪名川の河口域には そんな水田稲作の村が幾つもありました。

2020 年 11 月の和鉄の道に 関西での「水田稲作の始まり」と「縄文人と弥生人の共生」を紹介。

近隣に住む人たちもほとんどが知らぬそんな遺跡の一つが伊丹市口酒井遺跡でその重要性についても紹介

「伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪 2020. 11. 15. 久しぶりに周辺の猪名川・藻川 walk」

<https://infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalk00.htm>

【 掲 載 内 容 】

1. 8 年前の和鉄の道・Iron Road 2013

「水田稲作の始まり縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」

<https://infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf>

今回の walk の outline 田能遺跡・口酒井遺跡の概要はこの資料で

2. 【PDF 転載】 田能資料館開館 50 周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子 2020. 11 月

<https://infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanotokubetsuten.pdf>

3. 伊丹 口酒井・尼崎 田能集落遺跡 再訪 久しぶりに周辺の猪名川・藻川 walk 2020. 11. 15.

4. 口酒井遺跡・田能遺跡 Outline と田能遺跡特別展概要

<https://infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanowalk00.htm>

■ 田能資料館開館 50 周年特別展「田能遺跡の弥生人」小冊子 2020. 11 月

<https://infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211tanoiseki.pdf>

参考 未だ収束が見通せぬ 2020 コロナ禍の中で

「他人を思いやる心」 今一度 そんな視点にも 思いをはせてほしい

<https://infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/R0211kokoro00.htm>

久しぶりの関西からの縄文ニュース 2020. 2. 1.

[2] 縄文人と弥生人 共生の痕跡が出土した大集落遺跡 神戸市西区 玉津田中遺跡

西神戸弥生の大集落 玉津田中遺跡で、縄文人と弥生人の共生を示す痕跡の証拠 縄文を示す土偶・石棒・石包丁と弥生の土器が同じ弥生の地層から出土したという。

また、表情が縄文の土偶の特徴とは少し異なる顔 ノッペラボウのスッキリした形の土偶が出土。

弥生の人達が作ったのだらうといい、縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた具体的な証拠として、「玉津田中遺跡」が大きな話題となった。

久しぶりの関西からの縄文ニュース 2020. 1. 22.

「 縄文人と弥生人が共生の痕跡が出土した弥生の大集落遺跡

神戸市西区 玉津田中遺跡の発掘現場 171 号地点を訪ねる 2020. 2. 1. 」

<https://infokkna.com/ironroad/2020htm/iron16/2002tamatsutanaka00.htm>

弥生の初め 縄文人と弥生人が一緒に同じ集落で暮らしていた証拠 「

縄文を示す土偶・石棒石包丁と弥生の土器が同じ弥生の地層から出土」

縄文人と渡来弥生人が互いに融合して日本人が誕生したと紹介。

「心優しき縄文人 縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては 久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、
現地説明会 1 週間後の 2 月 1 日 西神戸の玉津田中遺跡を訪ね、併せて伊丹の口酒井遺跡についても紹介。
この記事の冒頭には 私にとっては思い入れの深い伊丹市口酒井縄文・弥生の複合集落遺跡について下記のごとく
記している

今回のニュースを聞いて、一番に頭に浮かんだのは、以前訪ねた伊丹市の弥生前期の集落口酒井遺跡

縄文人と弥生人の共生に思いを馳せて
伊丹市の空港近く猪名川東岸の弥生前期の集落遺跡
弥生の土器とともに縄文の祭りの象徴 石棒と土偶が出土し、初めて縄文人と
弥生人が共生していたことを明らかにした遺跡として 強く感銘を受けました



弥生人と縄文人の共生に思いを馳せて

弥生早期頃、東日本の縄文系の人達が
この大阪湾沿岸のこの地にやってきて、
在来の人達と一緒に生活していたことを
初めて解き明かしたのが、
伊丹市の弥生前期口酒井遺跡集落だという。



田稲作弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す大阪湾沿岸の弥生集落 田能・口酒井遺跡を訪ねる 2012. 12. 21.

<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>

伊丹市口酒井遺跡は弥生の土器と共に縄文の祭りの象徴 石棒と土偶が出土し、縄文人と弥生人が共生したと
研究者たちが考え初めた最初の遺跡で、当時とは真逆の「縄文人と弥生人が共生」の証拠が示された遺跡として、
現地を訪ねて 強い感銘を受けた遺跡です。

10 数年前まだ一般には、日本人の祖先は渡来の弥生人が縄文人を駆逐して、農耕稲作文化の時代を作り、
鉄器時代が始まったとの認識が強かった。そんな中で、阪神間や大阪平野には弥生の大集落田能遺跡など数多くの
弥生の集落が存在し、また、大阪平野には殺傷痕跡を持つ人骨がいくつも出土。周辺の高台には戦さの備え高地性
集落が数多く出現する。

そんな弥生時代の始まりの時代感の中で「縄文/弥生の人種間の大きな戦さはなかった」と共生を裏付ける考古
遺物が初めて出たのが口酒井遺跡である

口酒井遺跡の評価は遺跡群と渡来人重視の時代風潮の中に埋没してしまい、一般人では殆ど知られぬ遺跡。
でも、わたしには 今も忘れられぬ遺跡です。

それから 10 数年 縄文が教科書からも消え、厳しい競争の現代 縄文がさらにながしろにされる今
また、縄文人と弥生人が同じ集落で共生していた玉津田中遺跡がクローズアップされた。

「心優しき縄文人 縄文帰りの勧め」を口にする私にとっては
久しぶりの関西での縄文の報道にうれしく、もっと縄文を知ってほしいと。

【和鉄の道・Iron Road : 関連掲載記事】 .

1. 畿内と播磨の境 明石川・伊川流域の 弥生の高地性集落「表山 遺跡」とその下に広がる弥生の遺跡群
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron12.pdf>
2. 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して? 2006.12.5.
神戸市西端の丘陵地 明石川流域の玉津・伊川谷・櫛谷
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf>
3. 水田稲作・弥生の始まり・縄文と弥生の融合を示す
大阪湾沿岸の弥生集落 田能・口酒井遺跡を訪ねる 2012.12.21.
<https://infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron02.pdf>
4. 心優しき縄文人 縄文帰りの勧め 2014.6.1.
<https://infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomongaerinew.pdf>

そして、今や日本ばかりか世界が注目する日本の縄文 今や縄文・弥生の時代感が大きく変化し、
日本の縄文に世界が注目し、ついに日本の縄文が昨年ユネスコ世界遺産に登録決定された。
そんな日本の縄文・弥生の世界観 日本人のルーツを考える先駆けとなったのが口酒井遺跡です。
思い入れ一杯の縄文と伊丹市の猪名川沿いの縄文・弥生集落遺跡 口酒井遺跡です

2022. 6. 17. from Kobe Mutsu Nakanishi

<https://www.infokkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0306.jyomonweb.pdf>

2022. 6. 17. Mutsu Nakanishi 作成.